

国立大学法人電気通信大学インフラ長寿命化計画

(個別施設計画)

2020年3月

目 次

I. はじめに	1
II. 目的	1
III. 計画の範囲	2
IV. インフラ長寿命化計画の体系	3
V. 現状と課題	4
VI. 施設整備の基本方針	5
VII. 整備計画	9
VIII. 施設整備の水準等	12
IX. 財源	13
X. 計画の継続的運用	14
XI. フォローアップ	15

I. はじめに

平成24年12月の中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故を受け、政府全体の取組として、今後加速度的に増加していくインフラの老朽化に対し、国民の安全・安心を確保し、中長期的な維持管理・更新に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図るとともに、維持管理・更新に係る産業の競争力を確保するための方向性を示すものとして、国や地方公共団体、その他民間企業等が管理するあらゆるインフラを対象に、平成25年11月に「インフラ長寿命化基本計画」（以下「基本計画」という。）が策定された。

電気通信大学（以下「本学」という。）においてもこの基本計画に基づき、活発な教育研究活動を持続させていくために必要な施設の長寿命化のための中長期的な取組の方向性を定めた「国立大学法人電気通信大学インフラ長寿命化計画（行動計画）」（以下「行動計画」という。）を平成28年度に策定した。

この行動計画に基づき、各施設の長寿命化に供する基礎資料として、個別施設ごとの整備時期、費用等を具体的に示した「国立大学法人電気通信大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）」を策定するものである。

II. 目的

施設は、教育、研究など本学が果たすべき役割を担う重要な基盤である。

学生・教職員等が継続して安全に教育・研究活動を実施出来るように施設を適切に維持するために必要な改修、修繕等の年度計画を立案してコスト縮減及び予算の平準化を図り、良好な施設環境を維持することを目的とする。

Ⅲ. 計画の範囲

1. 対象施設

行動計画で示したとおり、本学が保有するすべての施設及び基幹設備を対象とする。

ただし、倉庫・ボンベ庫等の小規模建物、未とりこわし建物及び民間事業者が運営・所有している調布宿舎団地建物は対象外とする。

対象施設リスト

団地名	番号	建物名	建設年	大型改修年		構造 階数	延べ床面積 (㎡)
				内部	外部		
調 布	1	東9号館	1962	2003	2003	RS4	2,314
	2	東3号館	1965	2001	2001	SR10-1	14,908
	3	東35号館	1965	2001	2015	RS2	1,200
	4	C棟	1966	2012	2012	R4	1,121
	5	東10号館	1966	2008	2008	R4	1,972
	6	A棟	1967	2007	2007	R4	1,855
	7	D棟	1967	2010	2010	R4	2,307
	8	B棟	1968	2010	2010	RS2	2,295
	9	職員休憩室	1968	2012	2012	R1	186
	10	学内保育施設	1968	2012		W1	103
	11	東2号館	1969	2009	2009	R6-1	4,021
	12	東34号館	1969	2001		RS1	856
	13	旧電話交換室	1970			R1	83
	14	保健管理センター	1970			R1	446
	15	本館	1971	2012	2012	R5-1	3,973
	16	東32号館	1972			R1	251
	17	旧武道場	1972	1997	2012	R2	526
	18	西1号館	1972	2013	2013	R5-1	3,189
	19	西2号館	1972	2014	2014	SR8-1	8,252
	20	正門守衛所	1973	2001	2001	R1	40
	21	西3号館	1974	2013	2013	R5	2,701
	22	西門守衛所	1974			R1	33
	23	西4号館	1975	2010	2010	R6-1	2,253
	24	西5号館	1976	2003	2003	SR8-1	4,321
	25	東33号館	1978	2001		RS2	461
	26	東36号館	1979			R1	304
	27	職員研修所	1979			R2	136
	28	西食堂	1979			R1	470
	29	学生寮(五思寮)	1979	2005	2006	R5	2,235
	30	西6号館	1980	2003	2003	SR7	2,597
	31	東31号館	1980		2012	R2	511
	32	講堂	1981	※空調機器・トイレ改修済み		RS3-1	2,282
	33	西7号館	1982	2018	2018	SR7	5,139
	34	課外活動共用施設	1982			R3	1,783
	35	第2体育館	1984		2010	RS2	642
	36	西8号館	1987	(2019)	2018	SR8	5,543
	37	弓道場	1988			S1	121
	38	西9号館	1991			SR8	6,820
	39	国際交流会館	1991		2010	R5	1,788
	40	東1号館	1993			SR8-1	4,187
	41	プール管理棟	1994			R1	115
	42	東4・5号館	1995			SR8	10,115
	43	東7号館	1996			R4	2,172
	44	西10号館	1997			SR8	8,511
	45	東8号館	1997			R4	1,503
	46	大学会館	1998			R4-1	3,949
	47	80周年記念会館	2000			R3	1,072
	48	東6号館	2000			SR9	10,691
	49	西11号館	2010			R5	1,998
	50	新C棟	2012			R4	1,261
	51	体育館	2015			RS2	2,530
多摩川	52	管理棟	1971		S1	240	
藤 沢	53	浜見寮	1978		R2	437	
菅 平	54	宇宙電波観測所	1968		2013	R3	634
	55	宿泊施設	1983			R2-1	703

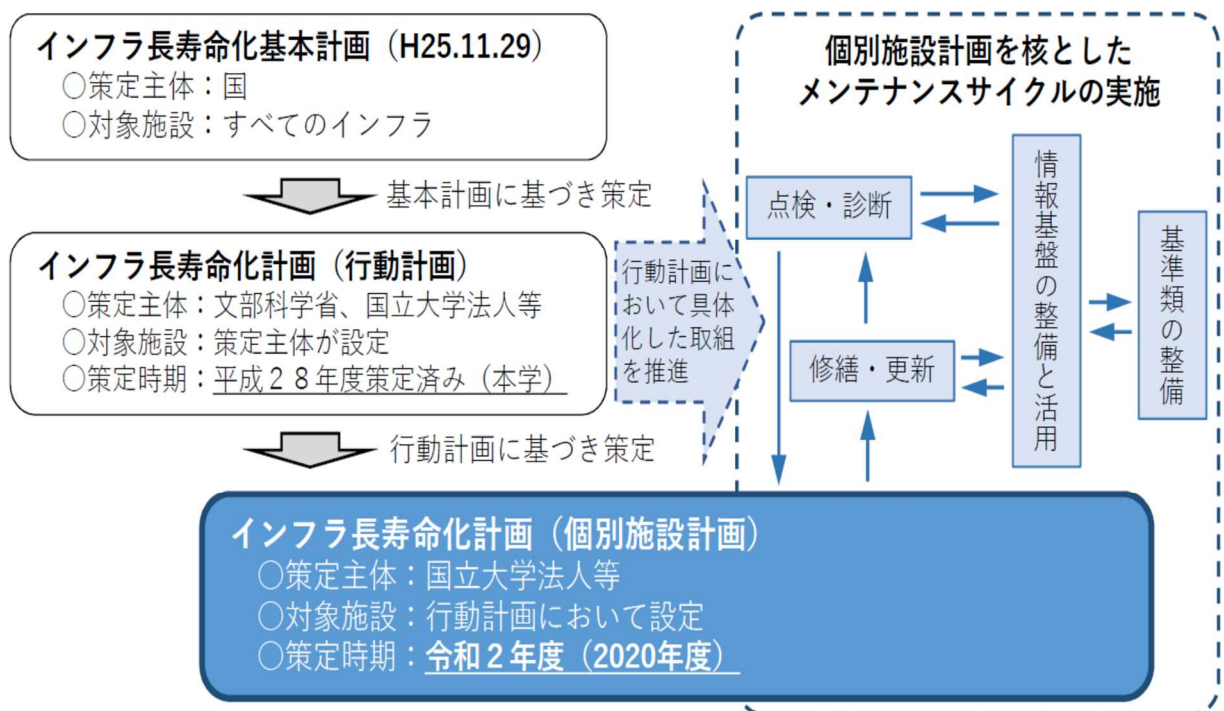
延べ床面積 合計 140,156 ㎡

2. 計画期間

計画期間は、各施設の更新周期や目標耐用年数等を中期的な視点により計画を定めるものとし、2020年度から2033年度（第5期中期目標計画期間終了年度）までの14年間とする。

IV. インフラ長寿命化計画の体系

インフラ長寿命化計画 体系図



V. 現状と課題

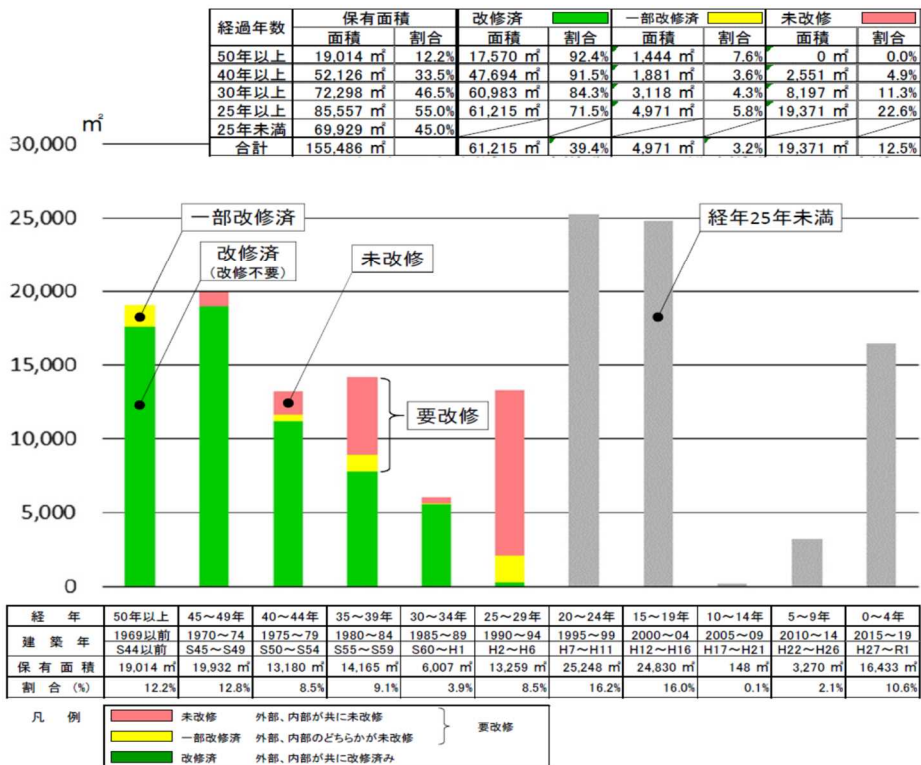
●現状と課題

本学の全保有面積155,486㎡のうち、建築後25年以上経過した建物は、85,557㎡と全体の55%を占めている。

このうち改修を行った建物は61,215㎡（72%）、要改修建物は24,342㎡（28%）で全保有面積の16%となっている。

10年後の2030年には、建築後25年以上経過した建物が135,635㎡、全体の87%となり老朽化が一気に進み、膨大な施設の更新時期が到来し、安全性・機能性・経営面において大きな課題となるため対応が急務である。（2019年5月1日現在）

基幹設備（受変電設備、給排水設備等）も同様に老朽化が進行し、耐用年数を超えたものも多くあり、適切に修繕、改修を行わないと、故障等の不具合が発生した場合には、教育・研究に多大な支障を及ぼすこととなる。



※ 西8号館(延5,543㎡)は、「改修済」として計上している。(平成30年度外部改修済、令和元年度内部改修完了予定)

VI. 施設整備の基本方針

●長寿命化型ライフサイクルへの転換

本学が抱える膨大な施設の効果的、効率的な施設整備・維持管理のためには、「国立大学法人電気通信大学インフラ長寿命化計画（行動計画）」で示したライフサイクルでは、各施設において故障等が発生してから必要な箇所を修繕する「事後保全」での対応となることが考えられる。

このため、故障等の発生による教育研究活動等への悪影響、改修や修繕費用による財政負担を考慮すると、適切な時期に改修等を行い既存施設の性能を維持する「予防保全」で対応する「長寿命化型」ライフサイクルに転換する必要がある。

「長寿命化型」ライフサイクルへの転換により既存施設を最大限に有効活用することが可能となる。

【長寿命化とは】

各施設の機能や性能劣化の有無やその兆候・状態を的確に把握し、劣化を予想した上で計画的に適切な時期に改修を行い、故障等の発生を未然に防ぐ「予防保全」を行う。

これにより、建物の骨格部分である躯体の耐久性が維持される80年以上建物を長く使うことで施設を最大限活用することが出来る。

このような長寿命化ライフサイクルを推進し、併せて財政負担の軽減及び平準化にも取り組む。

「行動計画」で示した考え方

建設後 25年経過・・・大規模改修
50年経過・・・大規模改修
75年経過・・・改築

事後保全で対応

「各施設で故障等が発生してからの対応」

例：屋上防水機能や空調機器等では耐用年数を超過してからの対応となるため故障等の不具合が多発する可能性が高くなってしまう。

「長寿命化型」の考え方

建設後 20年経過・・・性能維持改修
(各施設の性能を設置した時と同等まで回復させる改修。)
40年経過・・・性能維持改修＋機能向上改修
(性能維持改修に加え、時代変化に伴う教育研究ニーズ等に対応した「機能向上改修」を行う。)
60年経過・・・性能維持改修
80年経過・・・改築

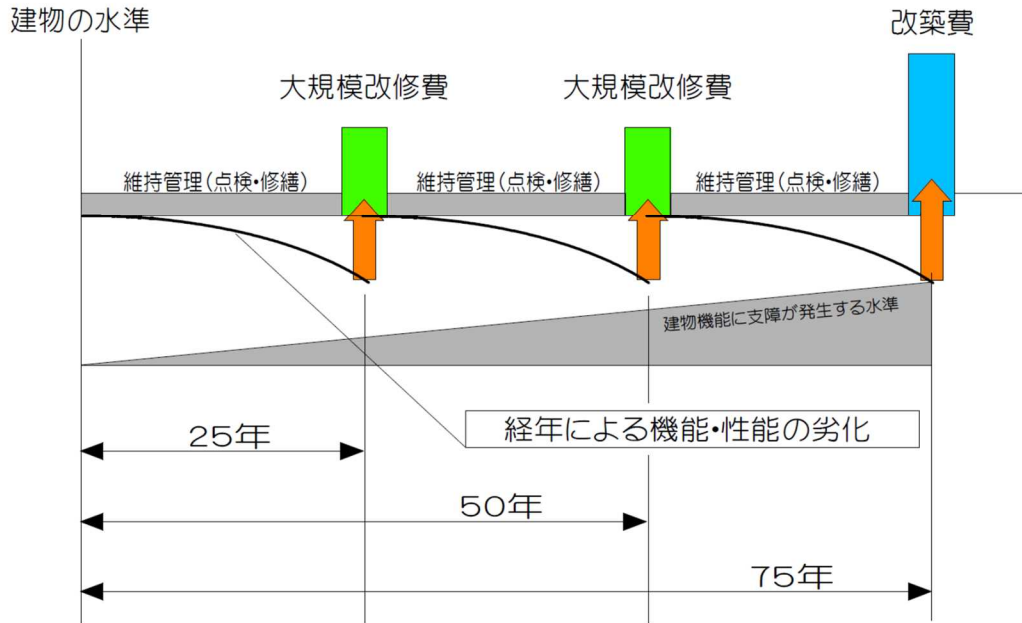
予防保全で対応

「各施設の故障等が多発する時期より前に対応」

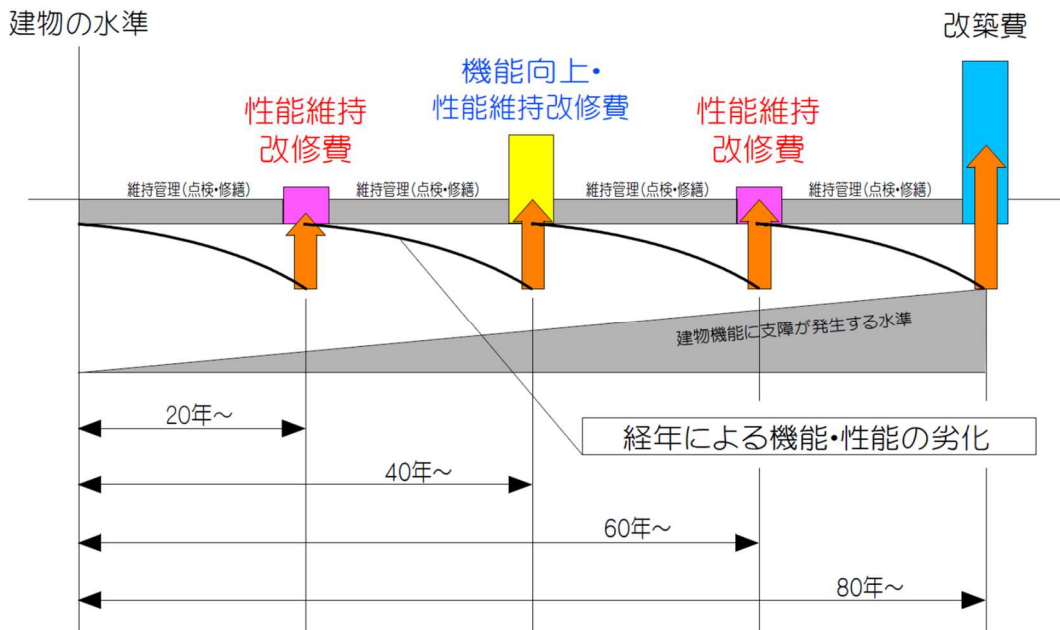
各施設において耐用年数、個々の劣化状況等を考慮して故障等が多発する前の適切な時期に改修を行う。

ライフサイクル イメージ図

行動計画での考え方

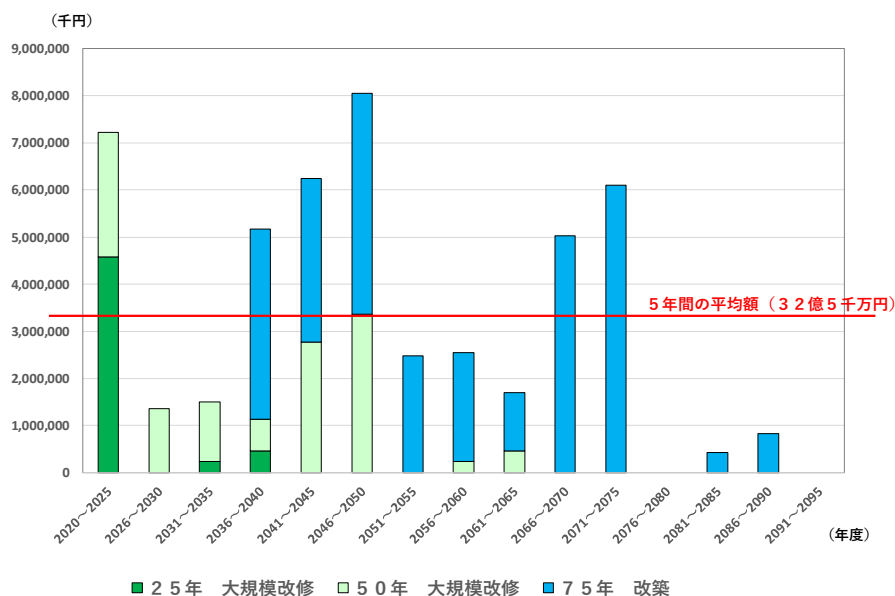


個別計画での考え方 〈長寿命化型〉

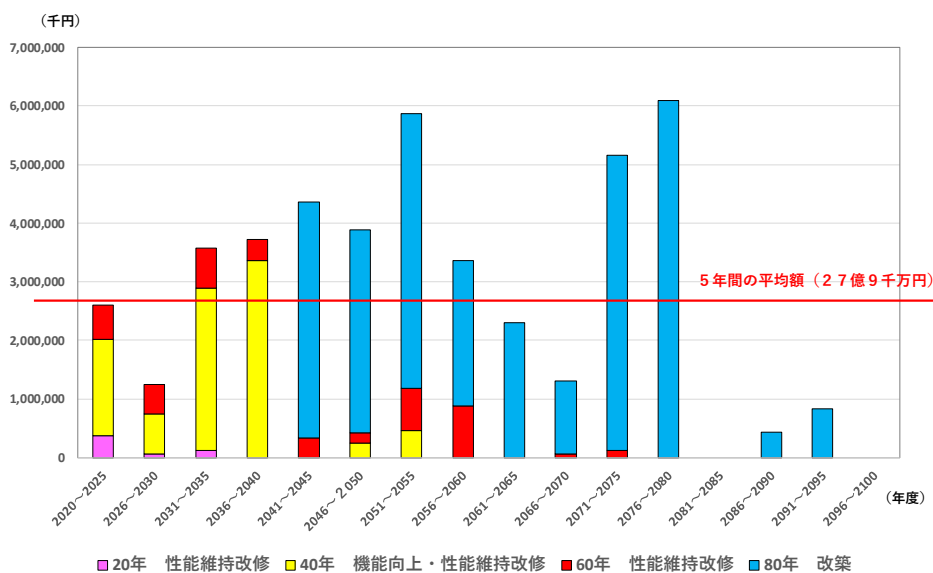


長寿命化に向けたライフサイクルへの転換した場合のコスト比較

インフラ長寿命化計画（行動計画）時ライフサイクルコスト



長寿命化型ライフサイクルコスト



対象建物、全55棟の行動計画時と長寿命化型のライフサイクルコスト（建設～改築まで）を比較

- 行動計画時（75年）・・・総額487億円、年平均6億5千万円
 - 長寿命化型（80年）・・・総額447億円、年平均5億6千万円
- 長寿命化型に転換すると総額40億円、年平均9千万円の削減効果

VII. 整備計画

(1) 優先順位の考え方

施設の建設、改修後の経過年数を基本とするが、劣化や破損の状況、安全確保、省エネルギー・環境対策、修繕歴や当該施設の使用状況、重要性等を総合的に判断して優先順位を決めることとする。また、緊急性やコストによっては順位を変更することも検討する。

(2) 劣化状況の把握

劣化状況の調査、法令点検（建築基準法、消防法等）の結果を適切に把握して優先順位を決める際の検討材料とする。

(3) 実施計画（改修工事概要）

・「性能維持改修」

各施設（防水機能、空調設備、給排水設備、電気設備等）において建設当初の性能を回復するため更新を主とした改修を行う。

・「性能維持改修・機能向上改修」

各施設の性能維持改修と併せて、時代の変化に伴う教育研究ニーズ等に対応する「機能向上改修」を行う。

(4) 工事費用

長寿命化型ライフサイクルにおける建設後20年、60年経過後に行う「性能維持改修工事」の費用は、（独）大学改革支援・学位授与機構「施設費交付金」と大学の自己資金を活用する。

建設後40年経過後に行う「性能維持改修・機能向上改修工事」の費用は、文部科学省「施設整備費補助金」を要求する。

自己資金等必要額	計画期間（14年間）	総額	18億3千万円
		年平均額	1億3千万円

施設整備費補助金要求額	計画期間（14年間）	総額	90億7千万円
		年平均額	6億5千万円

※必要額には建物整備費用の他に基幹設備整備費用（受変電設備・給排水設備等の改修、更新）も含む。

(5) 平準化

特定の年度に工事が集中して財政負担等にならないように各年度工事の「平準化」に努める。

計画内容も常に検討、見直しを行いコスト削減に努める。

各設備等 計画更新年数表

	分 類	耐用年数	計画更新年数
建 築	屋上防水	20	25
	外壁（リシン吹付）	15	20
	外壁（タイル）	40	40
	外部建具	40	40
電気設備	屋外電力配線 【基幹設備】	15	30
	屋外通信配線 【基幹設備】	15	30
	受変電設備 【基幹設備】	15	25
	特別高圧受変電設備 【基幹設備】	15	25
	直流電源設備 【基幹設備】	15	20
	電話交換設備 【基幹設備】	15	20
	自家発電設備（非常用） 【基幹設備】	15	30
	照明設備	15	20
火災報知設備	15	20	
機械設備	屋外給水配管 【基幹設備】	15	30
	受水槽 【基幹設備】	15	30
	ポンプ（給水用・消火用） 【基幹設備】	15	30
	屋外ガス配管 【基幹設備】	15	30
	冷熱源設備（吸収式冷温水発生器等） 【基幹設備】	15	30
	空調設備（EHP・GHP）	15	20
搬送設備	エレベータ	17	30

改修工事費用 試算表

①「性能維持改修」工事費用 試算表

2020年 1月

事項	第3期中期目標計画期間		第4期中期目標計画期間						第5期中期目標計画期間						計
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	
屋上防水	26,650	0	20,647	0	19,129	25,135	39,248	0	7,993	0	7,687	0	9,097	6,876	162,462千円
外壁（リシン吹付）	31,460	0	0	58,804	0	0	18,998	0	34,179	59,416	0	0	14,000	89,226	306,083千円
外壁（タイル）	0	19,397	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19,397千円
外部建具	18,634	42,217	21,931	0	0	9,700	0	13,621	0	0	0	23,065	0	0	129,168千円
屋外電力配線	0	0	0	1,895	4,305	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,200千円
屋外通信配線	15,176	1,396	0	4,162	511	773	0	0	0	0	0	0	0	0	22,018千円
受変電設備	1,553	0	6,426	0	14,128	0	16,093	3,278	0	1,221	0	3,768	7,599	2,044	56,110千円
特別高圧受変電設備	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0千円
直流電源設備	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11,198	0	0	0	0	11,198千円
電話交換設備	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32,550	32,550千円
自家発電設備（非常用）	0	0	0	0	0	0	10,901	0	0	0	0	16,847	0	0	27,748千円
照明設備	33,990	2,840	0	0	0	2,915	0	660	0	0	0	0	0	0	40,405千円
火災報知設備	2,500	7,500	0	20,500	2,500	0	1,000	0	2,500	0	0	0	0	0	36,500千円
屋外給水配線	0	0	249	915	928	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,092千円
受水槽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,874	0	4,874千円
ポンプ（給水設備）	0	0	0	0	0	0	0	2,940	0	0	0	0	0	2,940	5,880千円
ポンプ（消火設備）	4,896	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,583	0	10,479千円
屋外ガス配線	0	710	0	292	2,300	0	2,268	9,110	2,646	0	0	0	0	0	17,326千円
冷熱源設備	0	0	0	0	0	0	0	58,750	76,020	0	0	0	0	0	134,770千円
空調設備（EHP・GHP）	0	57,200	81,700	48,000	87,404	90,444	47,407	34,500	16,650	73,525	105,600	73,275	91,600	0	807,305千円
エレベータ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0千円
計	134,859	131,260	130,953	134,568	131,205	128,967	135,915	122,859	139,988	145,360	113,287	116,955	132,753	133,636	1,832,565千円

1年間 平均額 130,898千円/年

②「施設整備費補助金」要求金額 試算表

「性能維持+機能向上改修」・「基幹設備改修等」 は改修を国債（複数年度事業）で要求している建物

要求年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度	計
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	
要求金額	196,000	521,500	521,500	652,000	781,500	781,500	168,000	303,000	662,500	662,500	647,000	189,000	824,500	824,500	
（要求事業別）	130,000		34,645		183,258			600,000	42,230	32,475	57,648		54,159	56,991	
								42,230	30,562		25,210		29,297	17,038	
計	326,000	521,500	556,145	652,000	964,758	781,500	168,000	945,230	735,292	694,975	729,858	189,000	907,956	898,529	9,070,743千円

1年間 平均額 647,910千円/年

改修工事費用試算額 集計

要求年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度	計
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	
①性能維持改修工事費	134,859	131,260	130,953	134,568	131,205	128,967	135,915	122,859	139,988	145,360	113,287	116,955	132,753	133,636	1,832,565千円
②施設整備費補助金	326,000	521,500	556,145	652,000	964,758	781,500	168,000	945,230	735,292	694,975	729,858	189,000	907,956	898,529	9,070,743千円
計	460,859	652,760	687,098	786,568	1,095,963	910,467	303,915	1,068,089	875,280	840,335	843,145	305,955	1,040,709	1,032,165	10,903,308千円

1年間 平均額 778,808千円/年

VIII. 施設整備の水準等

(1) 基本事項

施設を構成している部材は多種多様であり、部材はそれぞれ耐用年数が異なるため改修工事を行う際には耐用年数に達していない部材に影響が発生しないよう考慮して更新が容易に出来るように整備する。

(2) 柔軟性

将来の用途変更等に柔軟に対応し改修工事が必要な場合でも低コストで工事が出来るよう考慮して整備する。

(3) 安全・安心

- ・だれにでも使いやすく（バリアフリー化）
- ・安全安心の確保（事故防止・防犯対策）
- ・法令対応（法令順守、既存不適格の解消）

(4) 省エネルギー・環境対策

高効率機器の導入や環境負荷の低減に対応した材料、工法等を積極的に採用して省エネルギー化及び環境に配慮して整備する。

(5) 維持管理

保守点検、修繕及び清掃等の維持管理が容易かつ効率的に行えるよう考慮して整備する。

IX. 財 源

近年、法人化のメリットを生かし、国からの支援のみならず、民間企業との連携や間接経費の活用、さらにはエネルギーの「見える化」等による支出削減の取組を推進し、施設整備に係る財源の多様化を図っている。

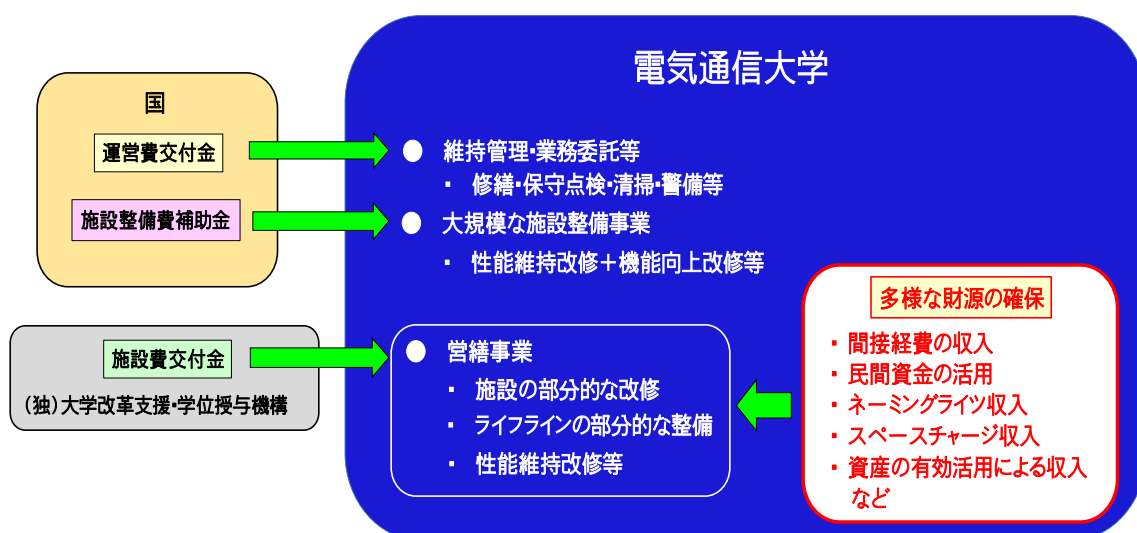
今後も国等からの補助金を活用しつつ、従前の取組を強化するとともにネーミングライツやスペースチャージ等による収入を新たに確保するなど、財源の多様化を加速させることとする。

【財源の多様化に向けた主な取組事例】

- ① 民間資金の活用
 - ・ 調布宿舍団地の整備を実施（100周年キャンパス）

- ② 収入増に見直した財源
 - ・ オープンラボ単価の見直し
 - ・ 共同研究に係る間接経費比率を10%から30%に見直し（令和元年度）
 - ・ ネーミングライツ制度の導入（令和元年度より運用を開始）
 - ・ スペースチャージ制度の導入（令和2年度より運用を開始）
 - ・ 資産の有効活用

- ③ 支出の抑制による財源の確保
 - ・ エネルギー使用量管理による光熱費用の抑制
 - ・・・「見える化システム」を導入するとともに学生との共働により、
 - 全学が一体となった省エネルギー対策を推進して光熱費用を抑制。



X. 計画の継続的運用

(1) PDCAサイクルの運用

長寿命化計画を効果的、継続的に進めるためにはPDCAサイクルを確立し確実に実行することが重要である。

PDCAサイクルを運用し、施設の実状把握や評価を行い、把握した情報、データに基づき、より効果的な整備、計画の見直しを行う。

- Plan . . . 実状、点検、評価に基づく長寿命化計画の作成
Do . . . 長寿命化計画に基づいた改修及び定期的な巡視点検の実施
Check . . . 改修後の効果検証を行い、課題など改善すべき点を整理
Action . . . 計画内容の見直し



本計画を確実に実行していくことにより、施設等を健全に保ち、将来に亘り継続的に維持できる施設を構築していくことが重要である。

そのためには、建物劣化状況調査を確実に実施し劣化状態の記録、各設備の修復、更新歴を記録した設備台帳の作成など、各施設の必要なデータを収集しデータベース化を行うことが必要である。

また、今後改正される法令等にも適切に対応するなど法令順守にも務める。

- ・建物劣化状況調査

施設課職員、保守管理業者による巡視点検や毎年行う各種法定点検（建築基準法、消防法等）に基づき、実施した対応策等を記録。

- ・設備台帳

各建物の設備ごとの種別、台数や修繕、更新歴を記録した台帳。

XI. フォローアップ

P D C Aサイクルを確実に実施し常に現状を把握する。

今後は長期的ビジョンに基づき、必要な施設、規模を縮小する施設、将来的に不要になる施設等を検討して、施設の保有状況の最適化を図る必要がある。

本計画書は、整備の進捗状況、劣化調査結果等を踏まえて常に見直しを図るものとする。

劣化状況調査 チェックシート

通し番号	1		
学校名	電気通信大学	学校番号	1
建物名	本館	調査日	令和元年12月20日
棟番号	1	記入者	
構造種別	RC	建築年度	昭和46年度(1971年度)
	延床面積	3,457 m ²	階数
			地上 5階 地下 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防水	H24	防水改修	<input type="checkbox"/> 降雨時に雨漏りがある			A
	<input checked="" type="checkbox"/> アスファルト露出防水			<input type="checkbox"/> 天井等に雨漏り痕がある			
	<input type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水			<input type="checkbox"/> 防水層に膨れ・破れ等がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板)			<input type="checkbox"/> 屋根葺材に錆・損傷がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類)			<input type="checkbox"/> 笠木・立上り等に損傷がある			
<input type="checkbox"/> その他の屋根 ()			<input type="checkbox"/> 樋やルーフトレを目視点検できない				
2 外壁	<input checked="" type="checkbox"/> 塗仕上げ	H24	全面改修	<input type="checkbox"/> 鉄筋が見えているところがある			A
	<input checked="" type="checkbox"/> タイル張り、石張り	H24	全面改修	<input type="checkbox"/> 外壁から漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 金属系パネル			<input type="checkbox"/> 塗装の剥がれ			
	<input type="checkbox"/> コンクリート系パネル(ALC等)			<input type="checkbox"/> タイルや石が剥がれている			
	<input type="checkbox"/> その他の外壁 ()			<input type="checkbox"/> 大きな亀裂がある			
	<input checked="" type="checkbox"/> アルミ製サッシ	H24	全面改修	<input type="checkbox"/> 窓・ドアの廻りで漏水がある			
	<input checked="" type="checkbox"/> 鋼製サッシ	H24	全面改修	<input type="checkbox"/> 窓・ドアに錆・腐食・変形がある			
	<input checked="" type="checkbox"/> 断熱サッシ、省エネガラス	H24	全面改修	<input type="checkbox"/> 外部手すり等の錆・腐朽			
				<input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある			

部位	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	<input checked="" type="checkbox"/> 老朽改修	H24	耐震補強を含む全面改修	A
	<input checked="" type="checkbox"/> エコ改修	H24	外壁等の断熱、複層ガラス、高効率機器、自動水栓など	
	<input checked="" type="checkbox"/> トイレ改修	H24		
	<input checked="" type="checkbox"/> 法令適合	H24 R1	12条点検指摘なし	
	<input checked="" type="checkbox"/> 校内LAN	H24		
	<input checked="" type="checkbox"/> 空調設置	H24		
	<input checked="" type="checkbox"/> 障害児等対策	H24	多目的トイレ、エレベータ、スロープ	
	<input checked="" type="checkbox"/> 防犯対策	H24	電気錠	
	<input checked="" type="checkbox"/> 構造体の耐震対策	H24	耐震壁、耐震ブレース、外側耐震フレーム	
	<input checked="" type="checkbox"/> 非構造部材の耐震対策	H24		
<input checked="" type="checkbox"/> その他、内部改修工事	H24			
4 電気設備	<input checked="" type="checkbox"/> 分電盤改修	H24	全面改修	A
	<input checked="" type="checkbox"/> 配線等の敷設工事	H24	全面改修	
	<input checked="" type="checkbox"/> 昇降設備保守点検	R1	法定点検実施	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他、電気設備改修工事	H24	太陽光発電設備	
5 機械設備	<input checked="" type="checkbox"/> 給水配管改修	H24	全面改修	A
	<input checked="" type="checkbox"/> 排水配管改修	H24	全面改修	
	<input checked="" type="checkbox"/> 消防設備の点検	R1	法定点検実施	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事	H24	全面改修	

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項が有れば、該当部位と指摘内容を記載)
 建築基準法第12条点検、各種法定点検、保全契約による日常点検等実施
 軽微な指摘事項は随時対応済み

健全度
100 / 100点